

新しい司法書士像を求めて

# ザ・フォーラム

《季刊》2008.1 No.73

発行

司法書士・行政書士  
丹羽正夫事務所

〒461-0017  
名古屋市東区東外堀町32  
番地 鈴木ビル4F  
TEL 052-962-9693  
FAX 052-962-9633  
E-mail info@niwaoffice.com  
URL http://www.niwaoffice.com/

登記・法律問題など、  
お困りのことがございましたら、お気軽にご相談ください。



## 法律家としての矜持を胸に

司法書士 丹羽正夫

新年あけましておめでとうございます。本年も変わらぬご指導・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年一年を振り返ってみると、不祥事に始まり不祥事で終わった年だったように思われる。不二家の製造日改ざん、ミートホープ社の食肉偽装問題が明るみに出てからは、白い恋人、赤福餅、船場吉兆、ニチアス……

等々、食品メーカーから建材メーカーに至るまで、長年の不正が世に暴かれることになった。企業が不正行為を働く場合にはさまざまな要因が考えられるが、根本的には、日本の企業人の矜持が劣化してきているからと思われる。社会あるいは国民に対して、企業人としての誇りやプライドをもって社会的責任を認識した企業活動を行うならば、多くの不祥事は起こらないはずだ。コンプライアンスが経営の最重要課題として認識されてきたが、このような単純な行動基準が遵守できないようでは、この国の将来を極めて不安に思う。今日、企業と働く者の関係や意識が大きく変化してきたといわれる。終身雇用といわれる安定した身分保障制度が機能していた時代は、企業への忠誠心と相互の信頼関係が強い絆で結ばれていた。そのために、企業内の不

祥事が表沙汰になる事例は極めて少なかったともいわれる。しかし、経済のグローバル化・成果主義経営・リストラ・働く側の意識の変化などさまざまな要因によって、雇用の流動化がこの十数年で大きく進展してきた。その結果、働く者の企業への期待感・依存感の希薄化を増幅させたといわれる。

これまでに公表された不祥事が発覚する端緒になったのは内部告発といわれる。企業経営に致命的な打撃を与えかねない内部告発が増えてきている第一の理由は、こうした雇用関係の変化が指摘される。もはや企業は不祥事を隠蔽することは不可能になったことを認識し、早急に事実を公表し社会的責任を明確化しなければならない時代になったわけだ。そして、組織である以上は必ず不祥事は発生することを前提に、情報が迅速・的確に集まる仕組みを構築することが喫緊の課題である。我々司法書士にも、法をつかさどる者として高度な倫理観に裏打ちされた執務姿勢が強く求められている。増え続ける同職の不祥事が公表されるたびに、他山の石として気を引き締めている今日である。法律家としての矜持を胸に、この一年、依頼者の信頼に応えられる知識・能力に磨きをかけたい。